

カナダの冬は 祭りの季節

カナダの冬のイメージは「と問われたら、多くのカナダ人はカーニバルと答えるに違いない。あちらの村でも、こちらの町でも、寒気をついて楽しい行事が繰り広げられるからである。

二月はカーニバルの月。もとは中世ヨーロッパに発する四旬節（聖灰水曜日）からイースターまでの四十日間、直前のお祭り行事だが、カナダのカーニバルは、いわば冬が主役だ。

なかでも最も盛大で世界的にも有名なのが、二月五―十五日のケベック・カルナバルである。赤い帽子をチョコンとつけた雪ダルマ、ボンノーム・カルナバルが、「みなもの者、余が治世には悩みを忘れて楽しめよ」と言いながら、通りをねり歩く。

カーニバルの期間中、ボンノームが住む水の宮殿は、壁も、床も、階段も氷でできていて、銃眼つきの立派な胸壁やトポガンすべり台、それに牢屋まで備えた立派なお城だ。

ケベック市の旧市街区にあるカルナバル・ストリートでは、雪と氷の芸術の祭

典が繰り広げられる。カーニバルの熱気をいやが上にも盛り上げるのは、いろいろな競技大会やコンテストだ。ケベック市では、セントローレンス川のカヌー横断レースがハイライトになる。巨大な氷

盤がさかんに流れてくる川を、五人乗りのカヌーが向こう岸まで一・六キロの白熱したレースを展開する。川の真中で氷盤にぶつかったりすると、漕ぎ手がカヌーから氷盤によじ登って重いカヌーをやっこらさと引き上げ、急いで氷の上を走っていく姿など、とてもユーモラスだ。

ブリティッシュ・コロンビア州バーノンのウインター・カーニバル（二月六―十五日）は、スノーゴルフ、氷上野球、障害物スキーが名物である。

BC州のゴルフ・マニアが、夏を待ちきれずに始めたのがスノーゴルフ。これはまたたく間に広まった。

ゴルフボールは色付きのテニスボール、クラブはほうきでも棒でも何でもよい。ホールは雪を掘って水をかけ、凍らせたもの。押し固めた雪と氷がグリーンになる。

カナダでは、野球もウインター・スポーツとなる。ルールは普通の野球と変わらない。ただ、スケートをはいて打ったり投げたりするのは、相当骨が折れる。障害物スキーも面白い。坂を登り、巨

大なタイヤをはい上り、あるいは池を回

りこんだりしてゴールインしなければならぬので、このレースでこれまでスピード記録が出たという話はいずれ聞かない。もちろんまじめなスキー大会も行われている。これには米国や欧州からも、たくさんの方が参加する。そのほかスノーモービル大会、クロスカントリー・レース、雪合戦大会、チビツ子アイスホッケー大会、カーリング大会、それにベトナム・シヨールまでがバーノンの祭りを彩る。そしてカーニバルの夜は、毎夜、仮装舞踏会でふけていく。

BC州キンバレーの冬祭り（二月十一



ケベック・カルナバルの人気者「ボンノーム」

―十五日）も楽しい。キンバレーは「ロッキーマウンテンの香り」を漂わせた町だ。ビール祭りやドイツ音楽の夕べで賑わう中で、呼び物のこっけいなレース「シミュレーション」が行われる。これは一種のスキーなのだが、一台のスキー（ただの板切れ二枚を革ひもで足にくくりつける）に二人がのり、声をかけあいながら坂をすべり下りる競争だ。二人の息の合ったコントロールがなかなか難しい。そのほか綱引き、凧あげ大会などもある。

そして、マニトバ州セントボニフェスのボヤジャーの祭り（二月十四―二十二日）がある。ボヤジャーとはカナダの草創期に活躍した狩猟者や冒険家のことで、この祭りは、勇敢な一人のボヤジャー、ジャン・バプティスト・ラジモジエールがある使命のためにセントボニフェスからモントリオールまで深い雪の中を歩き通した壮挙を記念したものだ。だから祭りの行事もそれにちなんで、かんじき競走、クロスカントリー・スキー・マラソン、ひげコンテスト、ジグダンス・コンテスト、モカシン・ダンスなどと一風変わった催しが展開される。

ボヤジャーの祭りでも最高に沸くのは、犬ぞりレース。かつてカナダの冬に欠かせない存在だった犬ぞりの奮闘に、観客は郷愁と愛着をこめて声援を送る。

こうして厳しい冬も、華やかな祭りの色で塗られていく。そして、人々の間に祭りの興奮がさめかけた頃、カナダには遅い春がやってくる。